

ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ベーシックレッスン1-a-Bs											
対象	1 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	橋本佳紀			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。 他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
この科目を受講する学生は、ベーシストとしての基礎を固めると同時に、音楽をより深く理解し、イメージを持って演奏出来るようになることを目指す。 ダイアトニックコードスケールや他のスケールを徹底的に反復練習を行い習得する。 またフィンガリングトレーニングやコード分散和音など基礎的な技術・知識を習得し、アンサンブルにおける正確なリズム、フレーズを提供できるようにトレーニングする。オリジナル楽曲でのベースライン構築を行えるように基礎技術と基礎知識を身に付けることを目的とする。											
到達目標											
ベーシストとしての基礎をしっかりと身に付けること。1年次修了ライブでのオリジナル楽曲のベースラインを作成し弾くことを目標とする。 また基礎知識・基礎技術を身に付け、多ジャンルの楽曲に対応できるようにする。 ジャンルに分かれたベースラインを分析しその機能を理解し、自分の中でのベースラインのアイデアを蓄積することもプロフェッショナルとして必要である。そのためにも基礎技術、知識を徹底的に習得することも目標の1つとする。											
授業方法											
この授業では、基本的なリズムやビートなどのベーシストにとって重要な概念の理解とその演奏能力の向上、音楽理論の基礎概念の理解を中心に授業を進める。 フィンガリングトレーニング、スケール、コード構成音、トラディショナルチューンの譜読み等フィジカル・メカニカルなトレーニングが主となり楽器自体をコントロールできるようなレッスンを行っていく。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
この授業では、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。 配布資料・譜面は毎回持参、毎回行ったレッスン内容の反復練習を欠かさず行う事。 特にフィンガートレーニングは毎日の日課にするよう行っていく事。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	ダウンビート、アップビートの概念の理解										
第2回	8分音符のシンコペーションの理解。ベースラインの構成について										
第3回	ビート感覚をしっかりと感じながら演奏する										
第4回	全体のベースライン構成を把握しながら演奏する										
第5回	8分音符のオモテ、ウラの感覚をしっかりと感じること										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
ベーシックレッスン 1-a-Bs	
第6回	エイトビートの理解
第7回	8分音符のウラをしっかりと感じて演奏する
第8回	エイトビートの感覚をしっかりと感じて演奏する
第9回	ダイアトニックコードの理解 1 メジャーダイアトニックコードを理解する
第10回	ダイアトニックコードの理解 2 マイナーダイアトニックコードを理解する
第11回	ペンタトニックスケールの理解 1 メジャーペンタトニックスケールを理解する
第12回	ペンタトニックスケールの理解 2 マイナーペンタトニックスケールを理解する
第13回	コード進行の理解と正確な演奏
第14回	ビートの感覚とフレーズの関係
第15回	メジャーペンタトニックスケールが使われたフレーズの理解、正確な演奏

ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ベーシックレッスン1-a-Dr											
対象	1 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	堀越彰/崎村純弥			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。 他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
スティックの握り方、スティックコントロールを習得する授業。8ビート、16ビート、シャッフルビートなど基本リズムで楽曲が出来上がっていることを知る。現場でドラマーとしてやっていく自信につながるのは、常に充実した基礎力と瞬時に応用に変えられる経験の豊富さによります。授業内で、常に発表会形式で、習得したことを講師、学生の前でプレイすること、自分のプレイするドラミングの分析、解説をさせる。フレーズを聞いている学生からもその場でフィードバックのコメントを受けられ、日々成長を感じる授業となっている。ドラミングの基礎テクニックをつけ、あらゆる種類の楽曲に対して対応できる力を2年で完成させる授業。											
到達目標											
自分の好きなパターンばかりではなく、さまざまなジャンルのフレーズを習得することを目標としている。苦手なリズムをなくし、個人レベルで様々なフィールを表現できるようにするには、日々の練習と出来上がった自分のドラムプレイの分析、そして、再構築。常に出来上がった自分のプレイに対して、分析と再構築の意識を植え付ける。プロの現場では、同じパターンでもさまざまな抑揚、雰囲気を要求される。その対応力を身につけさせ、音楽に対する意識を高める。											
授業方法											
グループによる授業であるが、個人個人の中でのレベルアップを目標にする。基礎的な部分が完成した者は、プラスアルファの課題を追加していく、基礎も不安定な者はテンポダウンして着実に体に入れる。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
ドラミングのテクニックの習得には特に力を入れる授業ではあるが、ドラムの採譜、読譜にも力を入れる。音楽現場では、楽譜が読めるかどうか、その先の仕事獲得率に大きく変わってくる。現場さながらに各授業毎に譜面を配布し、ドラミングする授業を行う。2年間で現場での対応力を上げていく。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	レディポジションを理解してフォームを形成										
第2回	ダウン、アップ、タップ、フルでアクセントのコントロール										
第3回	シンプルなパターンを叩き、記譜し、覚える。										
第4回	オープン・クローズ、ハーフオープン、ゴーストモーション										
第5回	スライドステップ、ダンス・ステップを覚える										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
ベーシックレッスン 1-a-Dr	
第6回	跳ねたリズムと3連符フレーズの理解
第7回	3拍、1拍半、半拍半フレーズ
第8回	ビーターのオン・オフ、オープン・リムショットなど
第9回	8分、16分、3連符それぞれのシンコペーション
第10回	不完全小節の理解
第11回	各音符の裏取り、2拍連、1拍めのみ等
第12回	リバウンドストロークや装飾音
第13回	3ウェイ、4ウェイによるフレーズ
第14回	曲の流れに沿ったドラミング
第15回	全体のまとめ

ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ベーシックレッスン1-a-Gt											
対象	1 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	篠崎保			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
この科目を受講する学生は、ギターを通じて様々なジャンルや演奏に触れ、音楽そのものに対する興味をより深めていきながら、その技術を学んでいくことで、常に自分だけのプレイスタイルを模索し続けて行く姿勢を学ぶ。											
到達目標											
基本的な演奏技術を身につけながら、プロギタリストとして必要な一般知識をトータルで学ぶと同時に、あらゆるジャンルの音楽を通して、より実践的な演奏スタイルを構築していく。自己の音楽的な目標に「柔軟な音楽性」をプラスして演奏到達度を高める。											
授業方法											
この授業では、読譜、スケール、コードヴォイシング、イヤートレーニング、リズムトレーニングなどを相対的に学ぶ。メトロノームやバックシンクトラック、予め用意した課題曲やマテリアル等を活用した実技レッスン。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
この授業では、理由のない遅刻・欠席は認めない。また学生間、講師と学生とのコミュニケーション力向上のために、なるべく自己から発言する機会を増やして行く。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	授業の説明、課題について、各自の目標設定など。										
第2回	ペンタトニックスケールの紹介（メジャー、マイナー）										
第3回	ペンタトニックスケールエチュード										
第4回	ペンタトニックスケールを使ったアドリブ練習										
第5回	ダイアトニックスケールの紹介、アイオニアンスケール										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
ベーシックレッスン1-a-Gt	
第6回	ドリアンスケール
第7回	アエオリアンスケール
第8回	ドミナント系スケール、ミクソリディアン
第9回	HP5
第10回	リディアンb7th
第11回	エチュード使用
第12回	エチュード使用
第13回	課題曲 『Isn't she lovely』
第14回	課題曲 『Sunny』
第15回	全体のまとめ

ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ベーシックレッスン1-a-Key											
対象	1 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	杉山泰			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
この授業ではジャンル別にマッチングした演奏家を目指すべく右手・左手の独立からコードボイスシングなど多角的な演奏実習を行います。毎回の授業で鍵盤の基本練習である指ならしから行い、鍵盤に慣れていくところからしっかりと指導していく。											
到達目標											
基本的な鍵盤演奏技術を身につけながら、鍵盤を「音楽ツール」として有機的活用できる能力を持つ。自己の音楽的な目標に「柔軟な音楽性」をプラスして演奏到達度を高める。											
授業方法											
主にシンセパートの特訓。曲をリード譜を使用し構成・キー・リズム・ジャンルを理解することから実際に様々な年代のポップス・ヴォーカル曲の伴奏をピアノで実演するための指導を行う											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
授業内容的に実技的要素が高い為、必ず復習と練習をしましょう。ひたすら常に弾き続けることにより習得が確実なものになります。遊び感覚のシュミレートで弾いているだけでも十分効果はあります。どんな音でも構いませんので、聞こえてきた音を徹底的に鍵盤で表現してみましょう。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	鍵盤（キーボード）の基礎知識と基本練習の紹介										
第2回	鍵盤でのシュミレーション紹介と練習										
第3回	キーボードの特訓1（スケール奏 右手）： ひたすらスケール！！（ドレミファソラシド編）										
第4回	キーボードの特訓2（スケール奏 左手）： ひたすらスケール！！（ドレミファソラシド編）										
第5回	キーボードの特訓3（スケール奏 右手）： ひたすらスケール！！（クロマティック編）										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
ベーシックレッスン 1-a-Key	
第6回	キーボードの特訓3（スケール奏 左手）： ひたすらスケール！！（クロマティック編）
第7回	見極めチェック 右手・左手・クロマティック
第8回	メジャートライアドの解説と理解
第9回	マイナートライアドの解説と理解
第10回	セブンスの解説と理解
第11回	add9thの付加 課題曲の中でのコードの付加
第12回	コードのルート演奏に慣れよう
第13回	コードのルート+5th（オルタネイト）の演奏に慣れよう
第14回	8ビートのバリエーション（Rock&Pops）
第15回	指定されたコード進行でコード&ベースで演奏セッション

ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ベーシックレッスン1-b-Bs											
対象	1 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	橋本佳紀			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
リードシートの読み方、臨時記号や調合などの楽譜を読む上での基礎知識を理解する。自身の楽器の表現可能音域などをしっかりと把握していく。また楽曲の構成など全体が見渡せるようにしていく。アンサンブルを行うために必要な技術と知識を習得することが目的である。そのために必要な理論を理解することも重要な課題である。											
到達目標											
譜面をしっかりと読むと同時に、譜面にある必要最低限の情報からの表現力の幅を広げていく。へ音記号とト音記号の違いを理解し、ベースの役割を認識できるようにする。同時にベースラインアレンジメントをできるようにし、楽曲全体像も把握したうえで演奏できるように技術を高めていく事を目標とする。											
授業方法											
課題とする音源・譜面から構成などを説明。また、ジャンルの違いによる演奏のアプローチについても解説。基礎トレーニングを踏まえ、合理的な（スムーズな）運指を瞬時に判断でき実演できるようにトレーニングを行っていく。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
五線紙は必ず用意し、常にメモは取ること。第三者が見てすぐに理解できるような明確な表記を心がける。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受けることはできない。日々の反復練習を欠かさず行う事。配布資料・譜面は毎回必ず持参すること。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	下第一線から上第一線まで										
第2回	上第二間より高音域について										
第3回	楽器上でのポジションと照らし合わせ把握する										
第4回	楽器上での同音異フレットの把握（中低音域）										
第5回	楽器上での同音異フレットの把握（高音域）										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
ベーシックレッスン 1 -b-Bs	
第6回	音価、読み・書き方を知る
第7回	実際に演奏し感覚を養う
第8回	音価、読み・書き方を知る
第9回	実際に演奏し感覚を養う
第10回	音価、読み・書き方を知る
第11回	実際に演奏し感覚を養う
第12回	音価、読み・書き方を知る
第13回	実際に演奏し感覚を養う
第14回	音価、読み・書き方を知る
第15回	実際に演奏し感覚を養う

ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ベーシックレッスン 1 -b-Dr											
対象	1 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	堀越彰/崎村純弥			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。 他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
基本的な音符休符の読み。 配布されたリードシートや楽譜を読みながら演奏する。 楽曲を聴きながらコピーする。 またそれらが音楽的な表現で演奏出来る事を目的とします。											
到達目標											
Voアンサンブルやインストアンサンブル等の楽譜やリードシートを音楽的解釈を持って演奏する事。 また、それらを暗譜し、パフォーマンスをできるように自身の音にしていくこと											
授業方法											
次の時限に行われるVoアンサンブルの授業の楽曲を確認しつつ、 その曲で使われるであろうリズムパターンやフレーズを演奏する。 メトロノームや音源を使い、音符休符、テンポ、ダイナミクス等、音楽的表現の練習。 麻生、藤本、2 班に分かれて実習。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
遅刻はしない。迅速なドラムセッティングが出来るよう心掛ける。会話してるとき等に無駄な楽器の音を出さない。 理解出来なかった事は質問する。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	リーディングの意義の理解、個々の実力の理解										
第2回	ドラム譜における左記の理解										
第3回	リードシート等を読むときの進み方を理解する										
第4回	様々なテンポで叩き分ける。										
第5回	リズムパターンやフレーズで解釈する										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
ベーシックレッスン 1 -b-Dr	
第6回	様々なテンポで叩き分ける
第7回	リズムパターンやフレーズで解釈する
第8回	様々なテンポで叩き分ける
第9回	リズムパターンやフレーズで解釈する
第10回	各4分8分16分の理解
第11回	読み方使い方の理解
第12回	読み方使い方の理解
第13回	フレーズ、テンポ指定して演奏
第14回	複合リズムの演奏
第15回	前期まとめ

ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ベーシックレッスン1-b-Gt											
対象	1 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	篠崎保			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。 他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
スコアリーディング向上、アンサンブル向上、各パート楽曲に合わせアンサンブルを実践しながらスキルを向上する授業。奏でているフレーズのリズム、音符の長さ、表現方法など意識できるようにする。他の楽器と合わせる時には、全員がリードスコアを読み、小節の進行、リビートマークなどの臨時記号に対応できる現場能力を育成する。各パートと合わせることで、自分以外の楽器への理解も深まることを目的としている。											
到達目標											
3週間に1回、全コースとアンサブルの授業を行う。同じ楽曲であるが、さまざまなプレイヤーと合わせる事で、現場への対応力を養う。同一譜面を読んでも、プレイヤーによって奏でるフレーズは十人十色であることを知る。その中で自分の個性を発揮できる経験と知識、スキルを得ることを目標とする。この授業はプレイヤーコース内のコミュニケーションを図る上でも重要な授業であり、コミュニケーションがスムーズなセッションほどクオリティーがあがることも経験として知る授業となっている。											
授業方法											
この授業では、3週の間に2曲を演奏できるようなカリキュラムになっている。各パート1週目男子曲、2週目女子曲（入れ替わり可能性有り）、3週目全体アンサブル授業となります。1～2週目のパート別授業で、譜面読みを終了させ、一音一音、丁寧にプレイすることを主眼としている。全体アンサブル時には、譜面を読みながら自分のサウンドを出すことを目標としている。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
この授業では、全ての授業を出席しなければ、3週目のアンサンブル時に、合わせることができない。授業時間以外にも、仕込み等は自分で仕込んでくるものとする。全体合わせの過程、自らの仕込みの過程と過程を重視する授業であり、欠席が続くと演奏ができない。欠席の多い学生は全体あわせに参加させない可能性もある。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	各パートごと課題曲のリーディング										
第2回	楽器陣のみで曲の全体合わせ										
第3回	Vo。と共に全体合わせ										
第4回	男子、女子各1曲ずつ合わせ										
第5回	楽譜通りに演奏、足らないスキルの向上										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
ベーシックレッスン 1 -b-Gt	
第6回	楽譜でのリーディング能力の的認
第7回	メトロノームを使ったり、よりプロの実践的アンサンブルを加える
第8回	機材の扱い方や、音作り等の解説
第9回	男子、女子各1曲ずつ合わせ
第10回	男子、女子各1曲ずつ合わせ
第11回	楽譜通りに演奏、足らないスキルの向上
第12回	楽譜でのリーディング能力の的認
第13回	男子、女子各1曲ずつ合わせ
第14回	課題曲の総復習 ステージパフォーマンス、リハーサルの実施
第15回	課題曲の総復習 ステージパフォーマンス発表

ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ベーシックレッスン1-b-Key											
対象	1 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	杉山泰			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。 他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
この科目を受講する学生は、鍵盤楽器におけるあらゆる基礎となる知識、奏法について学び、プロとして必要な演奏技術と、プロとして最低限の読譜力を養うのが目的です。と同時に、音楽においてだけでなく、実社会において全ての事象には学ぶことや、考えること、思考の必要性の重視も説いていく事を目的とします。											
到達目標											
この科目では、学生が鍵盤楽器の奏法を基礎から学び、プロとして必要な技術、曲づくりへの発展、様々なジャンルへのアレンジにおいて必要な技術などを教室で各々のキーボードを使って学び実践して行く事を目標とします。											
授業方法											
この授業では、鍵盤楽器を使って様々な音楽的素養と、演奏における技術、そして特に必要な読譜力を養うのが主な目的であり、それに伴い、作曲、アレンジ力を養うための技術も身につける。教室には各個人に1 台のキーボードを用意し、実施する。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	様々なジャンルの曲の基礎的な読譜の解説										
第2回	様々なジャンルの曲の読譜、ポップス、ロック中心										
第3回	様々なジャンルの曲の読譜、ソウル、R&B、ジャズ中心										
第4回	7thコードのテンションの基礎解説										
第5回	課題曲を使用して7thコードのテンションの実践、初見										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
ベーシックレッスン 1 -b-Key	
第6回	テンションコードの基礎解説
第7回	課題曲を使用してテンションコードの実践、初見
第8回	様々なジャンルごとでのテンションコードの使い分け、ポップス、ロック中心
第9回	様々なジャンルごとでのテンションコードの使い分け、ソウル、R&B、ジャズ中心
第10回	主に洋楽と邦楽のリーディング的思考の相違と、テンション感の使い分け
第11回	ジャジーなサウンドの楽曲のコード分析 譜面使用して実践的に行う
第12回	課題曲を使用してジャジーなサウンドの楽曲のコード分析と初見
第13回	その他の楽器とアンサンブルしながら実際の現場に近い形での初見演奏
第14回	テンションコード全般の実演の総復習
第15回	他楽器とアンサンブルにて総復習

ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ベーシックレッスン1-c-Bs											
対象	1年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	上野一郎			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
この科目を受講する学生は、音楽活動を通じて今後の社会人として求められるコミュニケーション能力と、音楽家としての自己表現力を高めることによって自己鍛錬の必要性和喜びを学び、また他者との価値観の相違の認識と受容を繰り返すことで、幅広い人間性と社会性を持つことの重要性を理解することが目的である。											
到達目標											
この科目では、自身の楽器をより専門的に表現力や判断力を高めることで創造的に表現できる力を身に付け、自己表現の喜びと他者との共感力を養うことと、日々の自己鍛錬の計画と実行の積み重ねによって得られるものがいかに重要であるかを理解することを目標とする。											
授業方法											
この授業では、毎週学生の理解度をヒヤリング・チェックしながら進める。他者の問題点が自己の問題と共通あるいは類似のことも多く、問題解決しながら進めていく。授業中の積極的発言も自己表現の一つと考え、疑問点や問題点をできる限りその場で解決しながら行っていく。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
この授業では、受講の態度や出席数はもちろん基本的なあいさつやマナーなど一般社会の一員としてあるべき行動を求める。授業内の問題点は必ず質問またはメモに残して解消していくこと。授業内で配布されたプリント等は常時持ってくること。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	メジャースケールとナチュラルマイナースケールの具体的な違い										
第2回	メジャースケールと度数の関係を理解する										
第3回	12キーにおける平行調の理解										
第4回	全音、半音、1音半の関係を指板上で理解する・効率的な運指(1)										
第5回	全音、半音、1音半の関係を指板上で理解する・効率的な運指(2)										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
ベーシックレッスン1-c-Bs	
第6回	指板上の5種の形から見るメジャー&マイナーペンタトニックスケールの理解
第7回	2弦ルート, 3弦ルート, 4弦ルートのマイナーペンタトニックを弾く
第8回	1本の弦で、Fmペンタトニックスケールを弾く(1～4各弦で)
第9回	コール&レスポンス
第10回	コードトーン(Root、3rd、5th、7th)の機能とポジションの理解
第11回	ペンタトニックスケールと経過音
第12回	ペンタトニックスケールのチョーキングポイント
第13回	アップビート(前小節)からのアプローチ
第14回	ゴーストノートとグループ・ソロ
第15回	前期課題曲 Sweet, Do It Now, I Just Wana Be With You, Leave Me Alone

ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ベーシックレッスン1－c-Dr											
対象	1 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	麻生 祥一郎			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
基本的な技術力と応用力を習得し、アンサンブルの中でのリズムセクションの中心的役割を担い、即興的な対応力を身につける。演奏力の向上に一番大事な基礎力を重点的に行う。スティックの握り方、叩き方など、意識していなかったものを意識しながら、演奏することが大事になる。プロドラマーになる要素として、自分の演奏を細分化し、客観的に観る視点が大事になる。2年間を通じて、プロの現場で通用する、客観的な視点、アレンジする能力を習得する。											
到達目標											
スティックの握り方一つでサウンドは変化する。この授業では、ドラムの基礎を重点的に学び、自らのドラミングに即座に反映することを目的としている。1年次には、8ビート、16ビート、シャッフルビートの応用を習得し、毎回発表会形式で、自らのプレイを人前でプレイする機会をつくり、講師からフィードバックが戻る形式にしている。アクセントコントロールなど基礎中の基礎を時間をかけて行い、授業外の練習の重要性など、テクニック以外の考え方なども伝える。											
授業方法											
ドラムセットによる演奏の他に、ドラム練習台によるスティックコントロールに多くの時間を掛けます。ドラミングの基本は基礎。ドラムセットによるグルーブとフィールの習得、他の楽器とのアンサンブルによるリズムセクション形成方法と即興的アプローチを発表会形式で講師、学生の前で披露する。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
出席率を重視する。個々の目標に積極的に向かっていき、定期的にその目標が近づいているのかどうかを客観的に精査する。個人練習の時間をしっかりと取ることも重要である。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	自分の得意楽曲を講師に聞かせる。課題点などを見つける										
第2回	課題点に対して、練習方法や留意点を明確にして今後のレッスンの指標を明確にする										
第3回	スティックの握り方、ドラム椅子の座り方、ペダルの踏み方、ドラムセットのセッティング方法を知る										
第4回	キックを連打するテクニックを習得する										
第5回	ゆっくりなテンポから徐々にテンポアップ										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
ベーシックレッスン1-c-Dr	
第6回	自分の最速テンポで叩き続ける練習
第7回	リムとヘッドをほぼ同時に叩く感覚を習得する
第8回	スティックをヘッドの上に寝かせてリムだけを叩く感覚を習得する
第9回	左足を踏むタイミング、オープンクローズの時の手の動きを習得する
第10回	クラッシュシンバル、ライドシンバル、スプラッシュシンバルの叩き方を習得する
第11回	クラッシュシンバル、ライドシンバル、スプラッシュシンバルのサウンドコントロールを習得する
第12回	4分音符、8分音符のアクセントコントロールを習得する
第13回	16分音符のアクセントコントロールを習得する
第14回	4分音符、8分音符、16分音符を組み合わせたパターンのアクセントコントロールを習得する
第15回	ドラムセット全体でアクセントコントロールを習得する

ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ベーシックレッスン1-c-G t											
対象	1 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	穴倉聖悟			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
様々な楽曲、コードチェンジに対し、素早く反応して適切なフレーズを弾けるようになり、自身のパートアレンジも含め、幅広く音楽に生かしてゆく。現場ではあらゆるジャンル、コード進行に対しての対応力のある演奏力が求められる。自身が弾いているフレーズが何のスケールの何番目の音なのか、選択したスケールは正しいのかを意識できる音楽家の育成を目的としている。テクニック、知識、演奏スキルを身に着けることにより、自身のスタイルをプロデュースできるように育成していく。											
到達目標											
基礎的な楽曲を理解し、メジャー・マイナー・ペンタトニック・スケールを使ってフレーズを作り、表現力のあるソロを弾けるようになる。自身のプレイをしながら、コード進行、コードトーン、使用出来るペンタトニックスケールを常に頭の中で分析できるギタリストになることを目標としている。ペンタトニックスケールの音階を完璧に理解し、ペンタトニックスケール以外のスケールへの足掛かりを作る。											
授業方法											
課題曲に沿って、コード・アナライズ、スケール等を説明し、参考フレーズを元にソロを弾けるように反復練習する。授業内では必ず読譜が必要になる。コード、スケールを理解する上で、ポジションで覚えることも重要だが、譜面をしっかりと読み込み、譜面を読める音楽家への成長を促す授業。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
必ず五線紙を用意し、授業内容のメモを取ること。新しい事を身に付ける為には、相当量の練習が必要であり、授業以外の時間にも出来る限り多くの練習が必要となる。授業内では、反復練習のエクササイズ、譜面の読み方、譜面書き方、現場での譜面の扱い方などもレクチャーする。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	ペンタトニックスケールを弾き、反復練習										
第2回	ペンタトニックスケールのボックスポジションの理解										
第3回	ギターの様々なテクニクを紹介、習得										
第4回	ペンタトニックスケールのボックスポジションを複数理解する										
第5回	ペンタトニックスケールにブルー調が入るスケールを覚える										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
ベーシックレッスン1-c-g t	
第6回	ブルースリックを複数紹介、キー別にフレーズ習得
第7回	ブルース進行を理解し、習得する
第8回	メジャーキーでのペンタトニックスケールを修得
第9回	マイナーキーでのペンタトニックスケールを引き分ける
第10回	サブドミナント時のソロに使う音を理解、習得
第11回	アドリブ時にメジャー、マイナーペンタを織り交ぜる
第12回	コード進行のバリエーションを理解、習得する
第13回	ペンタトニックスケールでアドリブソロを発表
第14回	コード進行を意識したアドリブソロを発表する
第15回	ペンタトニックスケール、ブルースノートを入れたアドリブソロを発表する

ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ベーシックレッスン1－c－Key											
対象	1 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	二本柳一明			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。 他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
音楽の各ジャンル;ロック、ファンク、ライトファンク、ブルース（メジャー・マイナー）、ボッサ、スウィングなど多様なスタイルに応じた即興演奏を身に付ける。テーマ演奏の為の譜面の確認 コード進行の確認 様々な記号を含め、譜面を理解し曲を覚え、アンサンブルができるように指導する											
到達目標											
1 年次は学校で用意した課題曲を演奏できる様にすること。Sweet (Rock) I Just Wanna Be With You (minor Blues) Do It Now (Major Blues)Leave Me Alone (Funk) Affordable (Light Funk) Don’ t Look Down (Rock) Take Your Time (Bossa) Take Your Time (Bossa)Stop It (Swing)などの曲を課題曲とする											
授業方法											
各自ピアノ（キーボード）を一台ずつ用意して講師と共に演奏して学ぶ。 4 リズムアンサンブルの授業の準備内容を主に勉強するが、ソロピアノでのインプロビゼーションも並行して学ぶ。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
筆記用具と五線譜ノートを持参し、授業内の実践での内容を五線紙にメモしていく。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	メジャースケール（長音階）の確認										
第2回	マイナースケール（短音階）の確認										
第3回	各調性の概念の把握										
第4回	8ビート メジャーペンタトニックスケール										
第5回	8ビート マイナーペンタトニックスケール										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
ベーシックレッスン1-c-Key	
第6回	8ビート ペンタトニックスケールを使ったアドリブフレーズ
第7回	8ビート ペンタトニックスケールを使ったアドリブフレーズ課題曲を用いて実践
第8回	シャッフルビート ブルーノート
第9回	シャッフルビート クォータートーン
第10回	シャッフルビート メジャーヘキサトニックスケール
第11回	シャッフルビート マイナーヘキサトニックスケール
第12回	シャッフルビート ヘキサトニックスケールを使ったアドリブフレーズ
第13回	シャッフルビート ヘキサトニックスケールを使ったアドリブフレーズ課題曲を用いて実践
第14回	シャッフルビートのコンビング
第15回	課題曲を演奏

ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ベーシックレッスン1-d											
対象	1 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	鈴木一義/上野一郎 二本柳/麻生祥一郎/藤本健一			実務 経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。 他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
スコアリーディング向上、アンサンブル向上、各パート楽曲に合わせアンサンブルを実践しながらスキルを向上する授業。奏でているフレーズのリズム、音符の長さ、表現方法など意識できるようにする。他の楽器と合わせる時には、全員がリードスコアを読み、小節の進行、リビートマークなどの臨時記号に対応できる現場能力を育成する。各パートと合わせることで、自分以外の楽器への理解も深まることを目的としている。											
到達目標											
3週間に1回、全コースとアンサブルの授業を行う。同じ楽曲であるが、さまざまなプレイヤーと合わせる事で、現場への対応力を養う。同一譜面を読んでも、プレイヤーによって奏でるフレーズは十人十色であることを知る。その中で自分の個性を発揮できる経験と知識、スキルを得ることを目標とする。この授業はプレイヤーコース内のコミュニケーションを図る上でも重要な授業であり、コミュニケーションがスムーズなセッションほどクオリティーがあがることも経験として知る授業となっている。											
授業方法											
この授業では、3週分使い2曲を仕込む。各パート1週目男子曲、2週目女子曲（入れ替わり可能性有り）3週目全体合わせとする。3週目にはライブ形式で演奏を行い。演奏者ではないプレイヤーは客席で演奏を視聴し、演奏者たちにコメントをする。即時にフィードバックが帰ってくる授業。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
この授業では、全ての授業を出席しなければ。仕込み等は自分で仕込んでくるものとする。全体合わせの加、自らの仕込みも開り、授業の欠席等で演奏ができない学生は全体あわせに参加させない可能性もある。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	各パートごと課題曲のリーディング										
第2回	楽器陣のみで曲の全体合わせ										
第3回	Vo。と共に全体合わせ										
第4回	男子、女子各1曲ずつ合わせ										
第5回	楽譜通りに演奏、足らないスキルの向上										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
ベーシックレッスン1-d	
第6回	楽譜でのリーディング能力の的認
第7回	メトロノームを使ったり、よりプロの実践的アンサンブルを加える
第8回	楽器陣のみで曲の全体合わせ
第9回	男子、女子各1曲ずつ合わせ
第10回	男子、女子各1曲ずつ合わせ
第11回	楽譜通りに演奏、足らないスキルの向上
第12回	楽器陣のみで曲の全体合わせ
第13回	男子、女子各1曲ずつ合わせ
第14回	ゴーストノートとグルーブ・ソロ
第15回	前期課題曲 Sweet, Do It Now, I Just Wana Be With You, Leave Me Alone
第16回	前期試験発表会リハーサル
第17回	前期試験発表会